

日に日に世界が悪くなる

気のせいかそうじゃない

そんなじゃダメだと焦ったり

生活しなきゃと坐ったり……

この頃、日々、世の中が悪くなっていく……というさびしい不思議なフレーズで目が覚める。時に胸に手をあてて思いをめぐらせてみると、ほんとうにそうだと思わざるをえない。戦争、飢え、自然災害、日々のいろいろな事件……世の中は騒然としている。

でも私たちは心の奥で願っている。安らかな未来をあなたに、あの人に、私自身にも届けたいと。それで私たちは書くのだろう。小説を、詩を、俳句を、短歌を。

作品を選考しなければならぬというのはとても苦しいこと。私の場合は、まず一度すべての作品をさっと読み、それから作品の表紙を見て、その内容がおのずと思い浮かぶもの、それが生き生きと自分にせまってくるものを、今度はじっくり読みすすめる。そうして、読むのを繰り返していると、自然に自分の中で順位ができてくる。

今回の最終選考にと届けられた入賞作品も作者のその願いが心の奥深くていねいにつづられていた。ストーリー性にすぐれ、構成力がよく、初めて出会うような主人公たちで、読むのがほんとうに楽しかった。何度か読むうちに、主人公たちが物語の中から立ちあがって、手をさしのべてくれるような作品を選んだ。何よりも、作者自身が自分の選んだ主人公を心から愛しているような作品を。

今回の入賞者は、みなさん、文章力があり、うまいなあ、力をそなえているなあと感じた。小説というものは、読んだとき、何を受け取るのか、何を感じるのかが大事。それが私の選考の中心であった。

くよくよしないで

今夜も散歩しましょうか。